

ならていぶ

No.017 タイトル：私と 若者の生きづらさ と 支援者の方々

私 性別：男 年齢：61 職業：定時制高校教員
対象者 性別：女 年齢：30代 職業：あるお店のスタッフの方

以前お世話になったお店のスタッフの方から久しぶりに電話をいただいた。このお店とスタッフの方には、一人暮らしをする生徒が何かとお世話になっている。電話の内容は、とある元生徒の健康状態を心配するものだった。現在、在籍している生徒ではないので、できることは限られていたが、関係者と連絡をとるなど、最小限の対応をした。

この元生徒については、入学時からいろいろな方にお世話になってきた。いろいろなことを自分ひとりでやらなくてはならず、大変だったと思う。同じ年代の自分だったらつぶれていたのではないだろうか。この生徒の支援を通じてのいろいろな方との出会い、そうした方々との協働作業は自分にとって大事な経験にもなった。心配ではあるが、とりあえず様子を見て、もし何かできることがあれば対応したい。

数年前、教員と若者支援にかかわる方々との飲み会で、ある支援者の方から「教員から『いいパス』を出してほしい」といった言葉が出て、それをきっかけに、今の生徒・若者支援は、教員の個人技に頼ってはいけません、教員とさまざまな学校外の支援者がパスをつないでゴールをめざすようなものでないと、というような話しになった。いろいろな課題を抱えて学校に来ている生徒たちを、学校外のいろいろな方々の力を借りながら、支えようとするとき、この『いいパス』という言葉が頭をよぎる。『いいパス』を出すことだけでなく、出されたパスを受けられているか、パスをつなげることができているか。

時には、ゴールを見失いそうにもなるけれども、現役のうちは、『いいパス』を出せるプレーヤーをめざした。